

神戸市少年団北地区 審判講習会 平成 31 年 2 月 10 日

少年野球審判の基本理念

選手たちが安全に、楽しく、のびのびと、ルールを守って、精一杯力を発揮できるようにお手伝いする事が私たち少年野球審判員の仕事ではないでしょうか。

プロ野球の審判でも間違える事はあります。私たちアマチュアが間違える事は当たり前だと思って、少々間違えても落ち込まず、楽しく元気にジャッジしていきましょう。

ただ、間違えてばかりでも一生懸命プレーしている選手たちにも申し訳ありませんし、子供たちが野球を上達するのと同じように、私たち審判員も少しずつでも勉強しながら上達していくように頑張っていきましょう。

審判の基本

「出来る限り見やすい位置にすばやく移動して、しっかりと見て、大きな声とわかりやすいジェスチャーでジャッジする。」

これが審判員の基本中の基本ではないでしょうか。

試合前の準備から試合開始

試合開始 30 分前くらいに、両チーム監督、主将が集合してトスをします。この際にグラウンド幹事チームからグラウンドルールの説明がありますので、各審判員はこれを確認しておいて下さい。

またこれをもって両チームへのグラウンドルール説明としますので、試合開始整列時のルール説明は不要です。

両チームノックが終了し試合開始する際は、選手をベンチ前に整列させ、球審の「集合」の声でホームベース付近に整列させます。

審判員はホームベースの後方にセンター方向に向かって、左側から 3 塁審判、2 塁審判、球審、1 塁審判の順に並びます。

選手整列を確認して球審が「それでは〇〇対〇〇試合を開始します。攻守交替すばやく元気よく行きましょう。キャプテン握手。礼！」と発声して試合を開始します。

各審判共通事項

- ① 各塁でのアウト・セーフやファウル・フェア、キャッチ・ノーキャッチ等を見る場合はセットポジション（判定時の姿勢）にて行います。

基本は投球開始時にセットポジション→ゴー（見やすい位置に移動）→ストップ→セットポジション→コール（判定）となります。

セットポジションにはハンズオンニーセット（ひざに両手をのせた体勢）とスタンディングセット（両足肩幅くらいで立った姿勢）があります。

ハンズオンニーセットはベースでのタッチプレーやフォースプレー等近くでのプレーを見る場合に、スタンディングセットは外野フライのキャッチ等少し離れた位置でのプレーを見る場合等で行います。

- ② フォースアウトやタッチアウトの定義は走者がベースにつくよりも前にとの事ですので、同時はセーフとなります。

フォースアウトの判定は目だけではなく、耳でグラブキャッチの音と走者がベースを踏む音を聞く事も参考になるでしょう。音が同時に聞こえたらセーフという事ですね。

- ③ 各塁共に、走者が先にベースに到着した時点でセーフですので、セーフのコールは速やかに行います。一旦セーフのコールをしても、ベースを離れたりしてタッチされれば、そこからアウトのコールとなります。

- ④ アウトのコールは走者よりも守備側が早いベースタッチと完全捕球を確認してからですので、一呼吸おいてからコールしましょう。アウトからセーフへジャッジを変更する事は出来ません。アウトのコールは **He is out**（ヒズアウト）とコールします。

- ⑤ フェア・ファウルの判定は、1・3塁ベース手前の打球は球審がジャッジします。各ベース上を通過するような打球及びベースから外野の打球は塁審がジャッジします。特にフライの打球は落球した場合、空中でグラブ等に触れた位置がフェア範囲かファウル範囲かを確認しなければいけませんので、ライン上にすばやく移動して、ハンズオンニーセットの体勢でしっかりと見て下さい。

- ⑥ フェアのジャッジは声出さずに指でフェアグラウンドを指して下さい。ファウルの場合は両手を上げて「ファウル！」と大きくコールして下さい。判定した審判に続いて他の3氏審判も同調してください。特にランナーがいる場合は素早くランナーに知らせて、元の塁へ帰してください。